

*題名中に書名が出現する場合は、引用符「」で囲みイタリック体を使用しない。

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は字句の訂正に留め、組版面積に影響を与えるような改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責了とみなす。

八 刷り上り五印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で一二枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷第一頁の上方に部数を朱書すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

▼本号の巻頭には蒲原理事長のご挨拶を掲載した。理事長の交替はすでに記事欄(裏表紙の欧文では *Notice*)で報じたが、「会報」の役割は役割として、製本して永く保存されるのは本誌であらうから、本学会の歴史にとって重要な事項は、やはり本誌としても対応したいと考えている。いずれにせよ、そこに述べられた抱負や展望に沿って、本学会がますます発展することを期したいものである。▼特集の「地域の医史学」には予想以上の寄稿があったので、本号にはその後半を掲載した。特集の企画は二、三あるが、当面は通常号として発行して行く予定である。それについても、このところ投稿がようやく増加の気配を見ていることを読者とともに喜びたい。地域の医史学に属する内容のものも、引き続き各地域からの投稿をお待ちしている。▼製作面について言うと、編集協力社の交替も手伝って、四号で若干の誤植が残ったのは残念であった。著者校正があることはミスの残ることに対する免罪符とはならないことを肝に銘じたい。▼本学会誌は文部省の補助金を受けて発行されており、年度の切れ目に一定ページ数を持った既刊分の提出を義務付けられている。その関係もあって、従来慣例的に四号ないし一号に収録していた文献目録を、今年は抄録号である二号に譲らざるを得なくなった。ご了承をお願い申し上げます。▼本号の表紙絵には、外国出来の古地図を採った。単色ながら、しばらくこの種の趣向を続け、中に移した目次には書籍紹介の筆者名書名などを加えるようにしたいと思っている。

(三輪 卓爾)